
天元突破逢魔ヶ刻

シモン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天元突破逢魔ヶ刻

【Zコード】

N4093V

【作者名】

シモン

【あらすじ】

長い戦いが終わった逢魔ヶ刻動物園。

帰つてみると、園長の姿がなかつた。

おかしいと思った一同は、園長を捜し始める。

その間際に見つけてしまつた物、それは「黒い穴」だつた。

いつも短いからねぐ（前書き）

なんか自分で読んでも短い…。

それでも短いふりながら

「ああ……学校疲れたーつ。」

いつもの様に蒼井華はのびをした。

「今日は天氣がいいなあ。昨日はあんな雨降つてたのに？」

「やあ！蒼井さん！」

後ろから声をかけてきたのは菊池だつた。

「あ、菊池くん！学校どうだつた？」

「疲れたよ。今日はなぜかいつもと違う感じがするし 何だろう？」

？

菊池は首をかしげた。

「ハナちゃん！おかえり！」

飛び出してきたのはウワバミさんだつた。

「ハナちゃん、あの 園長知らない？お昼頃から姿が見えないんだ
けど」

「どうせタカヒロ君の上に乗つて空飛んでるんじゃないんですか？」

「いいえ、タカヒロはいてるわ。」

「なんか厄介な事になりかねないです……。」

第一話　圓鏡じやなご（前書き）

あー・・。

第一話 園長じやない

夕方。

「えんちょー・・・」

すでに搜索していたみんなはぐつたりしていた。
探し始めた時からもう3時間も経っている。

華「ウワバミさん、こんな山の見つかってくい所、田代探査艇アーバ
ツト器官使えばどうです?」

ウ「あ・・・」

華「最初からそつすれば良かつたんだ・・・
疲れ果てたのか、華は地面に倒れ込んだ。

ウ「みんなーーー一番近くで園長と同じような熱源を見つけたわーーーあ
つちよーーー！」

一同「ヤッターーー！」

みんなはウワバミの指差す方向へ走り出した。

誰か「やっぱウワバミさんは早いよーーー10分で見つかったもんなん
！」

ウ「ふふ。」

みんなが走つていった後で、ウワバミは華へ駆け寄つた。

ウ「ハナちゃん！起きてーーー！」

華「ううーん、あー園長…あれ？みんなはーーー？
起きた華はきょとんとしていた。

ウ「みんな園長らしきものを見つけたから走つていったわ。」

華「そうですか。」

ウ「ほら、行きましょー。」

華「はー。」

大上「ウワバミ、園長のところまで後どの位・・?」

「おかしいわ。さつきはここに熱源があつたというのに……！」

華「動いてるんですか？園長ならあいつらの事でしょう？」

「そうね。あじえるかも。」

大上「いや、そういう問題じゃなくてだな、もう30分位走ってる

様な気がするんだが・・・」

大上は息切れしていた。

華「知多くん多分道のど真ん中で倒れてると思う・・・」

その時だつた。

「つわああああああああ！」

悲鳴が聞こえた。

華「！？」

「何？」

後ろには、

大上「うわああああああああああああ！！！」

ウ「大上！」

大王は密風に御用を以て、黒一色の母に及一式を以て、

華「ウワバミさん！木につかまつて！」

「ハナちゃん！みんなが
！知多！イガラシ！ゴリゴン！..」

「早々！」

華はウワバミの手を掴んだ。

一
あ

ウワバミはすでに足が地面から離れていた。

華も巻き添えになり、吸い込まれていった。

第一話 園じやない（後書き）

シモン「なんかプロローグと違つて長いね。」
ウワバミ「あんたが書いてるんでしょ。」

華「そうですね。プロローグ数行で終わりましたもんね。」
シモン「ああ、2話目も張り切つて行くぞ！」

一同「オーーーーーーーー！」

第2話 あこひら何者？（前書き）

あー……。

(^ A v) (()) ()

第2話 あいつら何者？

ドオオオオ。

華達はその大きな音と振動で目を覚ました。

華「んつ！？何の音？」

華は目を見開いた。

さつきまでとは違う所にいてたからだった。

穴に吸い込まれてしまう前までは草が茂った蒸し暑い山の中だったが、今は草木が一本も生えていない、砂漠の様な場所にみんながまとまつて転がっていた。

ウ「ハ ハナ…ちゃん、ニニ、ビニ…？」

ウワバミは震える声で華に語りかけた。

華「解りません 大体、ここが何なのかも特定できません。」
その時だった。

さつきまで眩しく照っていた太陽の光が、何かに遮られた。
後ろ以外を見回してみる。

大きな影だった。

華「あの…」うつ場合、必ず後ろに…」

華とウワバミは後ろにゆっくりと視線を向けた。

「いるんですね、ヤバイのが」

案の定、後ろにはいた。

誰もが見たことが無いであろう、巨大なロボットが。

ウ&華「ぎやああああああああああああああ！」

他の動物達は、その悲鳴で一斉に起きた。

特に、加西は起きるのが0・8秒ぐらいみんなより早かつた。

ロボットから声が聞こえた。

「何だあ！？何で獣人がこんな所に？」

ロボットは華達が思っていたより早く動いた。

「わーーーっ！」

ロボットは大上を掴み、持ち上げた。

華「大上君！」

次の瞬間、シシドが飛び出した。

シシド「殺ーす！！！」

ロボットの頭部を殴つた。

が、ロボットはびくともしない。

シシド「つ…！」

ロボット「何だオマエ？」

ウワバミ「みんな！逃げて！！」

華「でも…大上君が…！」

知多「大丈夫だし！」

知多は急にロボットめがけて突っ込んだ。

ロボット「ぎや！」

ロボットの腕は急に爆発した。

しかし、その後ろにはゴリコンがいていた。

大上は爆発の反動で吹っ飛び、悲鳴をあげた。

知多はすぐさま大上の所へ走り、大上をキャッチした。

ウワバミ「逃げてえ！！！」

ウワバミの合図とともに、皆は走り出した。

ロボット「ま、待てえええ！！！」

ウワバミは逃げながら思つた。

「…、あいつら何者…？」

第2話 あいつは何者？（後書き）

何か無茶な設定した様な気がする……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4093v/>

天元突破逢魔ヶ刻

2011年10月9日07時44分発行